

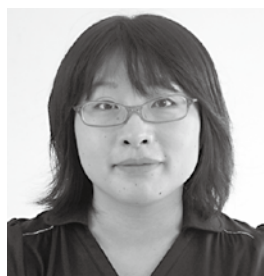
ごあいさつ

新任教員



一般教科 田平 恵

一般教科の田平恵です。「政治・経済」(3年生)と、「法学」(5年生)を担当しています。4月から社会人としての生活が始まりました。奈良高専の学生は素直で優しい人が多く、私自身が皆さんに教わることも多々あります。高専に通う年代は心身ともに飛躍的に成長できる時期であるとともに、それゆえに色々な悩みや困難にぶつかる時期ともいえます。まだまだ未熟者ですが、私でお力になれることが少しでもあればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



一般教科 刀田絵美子

一般教科(国語)の教員として着任した刀田絵美子です。よろしくお願いいたします。
私は、日本語の歴史(日本語史)を研究しています。多くの人がそうかもしれませんが、大学に入るまでそんな研究領域があるなんて思いもしませんでした。しかし、普段の生活の中で「どうして〇〇と言う(言わない)／書く(書かない)んだろう?」と思うことはありませんか。言葉の研究はそういう発見から始まります。その「発見」に対して、歴史的にどのような経緯を経てきたのかというアプローチをするのが日本語史研究です。興味がある方は、ぜひ研究室に遊びに来てください。



電子制御工学科 中村 篤人

4月より電子制御工学科に着任しました。着任当初は何もわからず、授業や校務など日々の職務をこなすだけで精一杯という状況でしたが、着任して3ヶ月が経ち、少しずつ高専の教員という立場に慣れてきたかなと感じています。とはいえ、着任して初めて授業を持つことになり、人に教えることの難しさを日々、身をもって感じています。まだまだ改善すべきところは多々ありますが、少しでも学生に興味を持ってもらえるような授業を行えるよう、継続して改善していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

退職にあたって



九州共立大学 木寺 英史

平成21年4月より高専教員としての最後の3年間を奈良高専で過ごさせていただきました。赴任以来、きめ細かく素晴らしい教育実践がなされていることに驚きの連続でした。その中に3年間身を置かせていただいたことは、私の生涯の宝物です。谷口研二校長先生はじめ、教職員の皆様には感謝のことばしかありません。奈良高専の益々のご発展と、教職員の皆様のご健勝を心より祈念いたします。ありがとうございました。

人事交流



一般教科 小野 慎司

仙台高専から人事交流で参りました小野慎司です。物理を担当しています。奈良高専は学生さんが物事に取り組む姿勢がすばらしいと思います。また、教員も仕事に集中できる環境があるように思います。加えて奈良は歴史ある落ち着いた地で、そのような場所で教員生活をできていることを大変うれしく思っております。学生の成長に寄与するのはもちろん、自分自身も奈良高専で様々なことを吸収し成長したいと思っております。



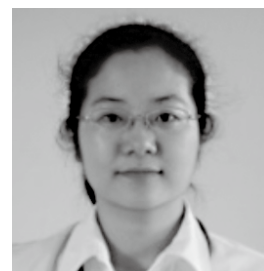
明石高専 武田 充啓

こんにちは。武田です。今年の4月から、明石高専で勤務しています。高専間の人事交流ということで、二年間お世話になります。
奈良高専での25年間の勤務経験を踏まえ、とはいえ気持ちは新人教員のもりで、明石高専のよいところを学び取り、また奈良高専での教育に生かしたいと思っています。こちらでの毎日はまた、奈良高専がすばらしい学校である、という再発見の日々でもあります。皆様のますますのご発展をお祈りいたします。



和歌山高専 青山 歓生

昨年度は、人事交流で奈良高専様に一年間お世話になりました。現在は、和歌山高専の知能機械工学科に所属し、公務は学内LANの更新作業を担当しています。
奈良高専では、一般教科に所属し、授業は物理教育を公務は寮務委員を担当いたしました。春は、1Iの学生と若草山にハイキング、夏は寮祭、秋は、公開講座で彦根城、高専祭でお茶のお点前といろいろ思い出されます。教科教育や公務を通して、皆様と一緒できましたことは大変楽しい思い出です。慣れないこともあり、いろいろご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、ご親切に接していただき本当にありがとうございました。



鈴鹿高専 鬼頭 みずぎ

奈良高専で三年間を過ごし、この4月に鈴鹿高専に移りました。今、研究やクラブなど学生と過ごした日々を思い出しています。着任当初、机ひとつなかった部屋を学生とともに研究室へと変えていきました。私はとても不安でしたが、学生たちは研究室づくりを生き生きと楽しみ、彼らの声は今後も私の支えとなってくれると思います。ここ鈴鹿高専の学生たちも元気に私の研究室づくりに協力してくれています。奈良高専の先輩学生たちが作製した実験装置を見て、鈴鹿高専の学生たちも多めに刺激を受け頑張っています。好奇心旺盛な高専生の持つ可能性ははかり知れません。高専生のさらなる活躍を期待し、彼らの交流を支えていきたいと思っております。